

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立嘉瀬小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成28年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生（中学3年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数（数学）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

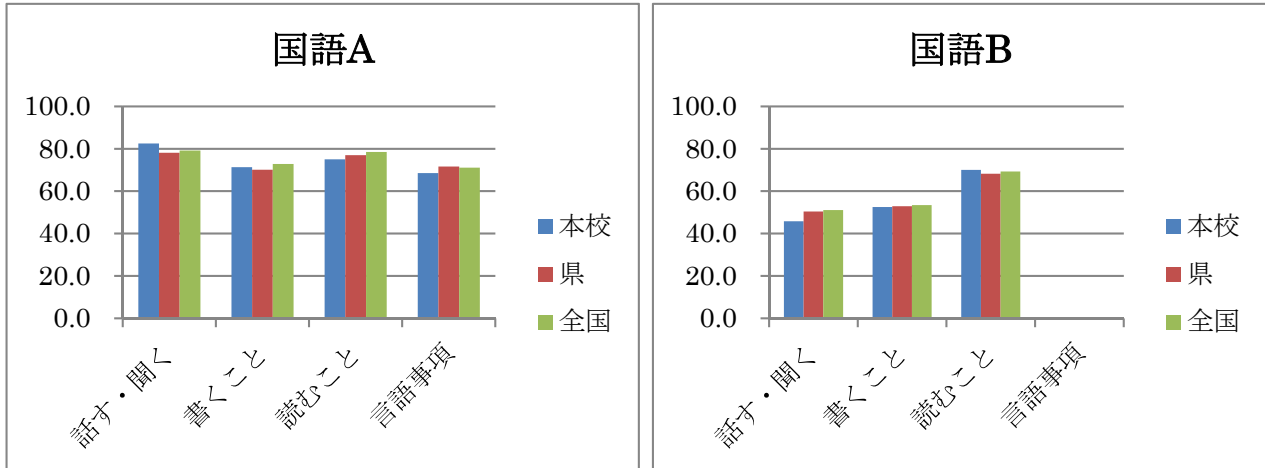
■調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

領域で上回った項目もあったが、全体で見ると、国語A、国語Bともに、全国平均、県平均を若干下回った。

全国及び佐賀県の領域別正答率との比較



(2) 課題

話す・聞く

- ・話し手の意図を捉えたり、目的に応じて質問したりする問題に課題があった。目的に応じて質問したいことを整理したり、互いの立場や意見を踏まえた上で、質問や意見をしたりする力をつけていく必要がある。

書くこと

- ・目的に対し、表現の効果を考えて書く問題に課題があった。取材した内容を目的に応じて整理・選択しながら、効果的に表現する力をつける必要がある。

読むこと

- ・物語文では、登場人物の人物像について、複数の叙述から捉える問題の正答率が低かった。文章を読む際に根拠を基に読み進めていき、場面の移り変わりに注意しながら、全体像を捉える力をつける必要がある。

言語事項

- ・言語事項については、漢字の読み書きや言葉の意味理解の項目では正答率は高かったが、ローマ字に課題があって全国平均、県平均を下回っている。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

朝の「読書タイム」、読書ボランティアによる「読み聞かせ」や「必読図書認定賞」「百冊認定証」の授与、司書や図書委員会による本の紹介など、児童を読書へ誘う活動を継続して行っています。

授業では、「学び合いの時間」を設定し、友だちに自分の意見を説明しあうことで理解を深めています。また、総合的な学習の時間に国語科で培った力を発揮する機会を設定することで、教科と実生活を関連づけ、意欲をもって主体的に学習に取り組む力の育成を目指しています。

【家庭では】

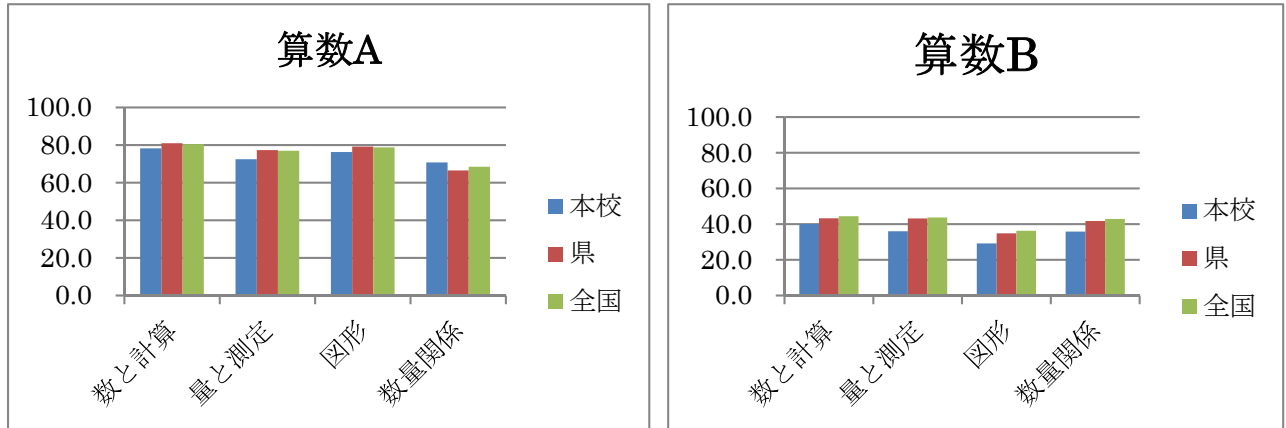
国語の力は、一朝一夕に身につくものではありません。日常的に、継続的に、楽しみながら取り組むことが大切です。これまでのように音読を聞いて、一言感想を言ってあげたり、一緒の空間で、読書をしたり（家読）することが児童の意欲にもつながります。

2 算 数

(1) 結 果

領域で上回った項目もあったが、全体で見ると、算数Aでは、全国平均、県平均よりやや下回った。算数Bでは、全国平均、県平均を下回った。

全国及び佐賀県の領域別正答率との比較



(2) 課 題

数と計算

- ・小数の割り算において除数と被除数に同じ数をかけても商が変わらないことを理解する問題の正答率がやや低かった。計算の仕方を定着させるだけでなく、仕組みも考えさせる必要がある。

量と測定

- ・単位量あたりの大きさを式に表したり、示された式の数値の意味を問う問題の正答率が低かった。答えを求めるためにどのような情報が必要かを判断しながら、論理的に考えをまとめていく力をつけていく必要がある。

図 形

- ・図形の構成要素に着目して図形を完成させる問題や図形と式を関連づけて説明する問題の正答率が低かった。見通しをもって図形を構成したり、図形を構成する頂点・辺・角を数量的に捉え、式と関連づけて説明したりする力を高める必要がある。

数量関係

- ・示された場面から比較量と基準量を割合で示したり、日常生活の事象を数理的に捉え、適切な式に表したりする問題の正答率が低かった。単に答えを出すだけではなく、問題場面を図に表し、図と式を関連づけて説明できる力を高める必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

算数科の基礎・基本となる四則計算の力が定着するよう反復練習を行うとともに、単元ごとの学習内容の確実な習熟を目指して、学習の後に適応問題を行い、つまづいている子への早めの対応を心がけています。また、問題の見通しを立てさせ、自分で考えた解決の方法をグループや全体で交流するなど、主体的な学びを通して思考力の向上を図っています。さらに、少人数やTTなどの学習形態を取り入れ、児童の理解度に応じた指導を行っています。

【家庭では】

基礎・基本の定着には、反復学習が必要です。また、生活と関連づけて、算数科の学習が役に立つ体験をすることも大切です。例えば、買い物のときに、100円で買えるお菓子を決めさせたり、九九を使って解決できる問題を出したりするなど、日常的に数字を使う体験をさせてください。

■調査結果及び考察

3 生活習慣や学習習慣に関する調査（一部抜粋）

(1) 結果

《児童の特徴について》

調査項目	県全国比	本校割合	県割合	全国割合
学校に行くのは楽しい。	↑	95.0%	85.0%	86.3%
人の役に立つ人間になりたい。	↑	97.5%	94.2%	93.8%

「学校に行くのは楽しい」と答えている児童が9割を超えており、「人の役に立つ人間になりたい」と答えた児童の割合も高かった。本校が地域と共に取り組んできた、児童一人一人に役割を与え承認の場面を作ることが、自己肯定感を高める結果となっている。

《生活習慣について》

調査項目	県全国比	本校割合	県割合	全国割合
朝食を毎日食べている。	—	87.5%	86.0%	87.3%
平日平均1時間以上読書をする。	↓	10.0%	16.5%	16.7%
平日平均2時間以上テレビを見る。	↑	65.0%	57.4%	57.1%

朝食については、毎日食べている児童が全国や県と同程度だった。1時間以上読書をする児童の割合は全国や県に比べて少なく、逆にテレビを2時間以上見ていると答えている割合が多く、時間の使い方について見直す必要がある。

《学習習慣について》

調査項目	県全国比	本校割合	県割合	全国割合
学習の目標とまとめをノートに書いている。	↑	95.0%	92.3%	87.9%
学級の友達と話し合う活動をよく行っている	—	77.5%	79.9%	77.6%
自分の考えを発表する際にはうまく伝わるよう工夫して発表する。	↑	67.5%	64.3%	64.2%
家で学校の授業の復習をしているか。	↓	45.0%	52.2%	55.2%
平日平均1時間以上、勉強をしている。	↑	80.0%	60.7%	62.5%
自分で計画を立てて勉強をしている。	—	60.0%	61.5%	62.2%

授業では、目標やまとめをきちんとノートに書くなど学習方法が定着しており、話し合い活動も全国と同程度できている。授業では工夫して発表することを心がけるなど意欲的に学習に取り組むことができている。

家庭学習の様子を見てみると、平日、1時間以上勉強をしている児童が8割を超え、自分で計画を立てて勉強をすることができる児童も全国とほぼ同じで家庭学習にはまじめに取り組んでいる。しかし、復習や予習に取り組む児童は少なく、課題の出し方の工夫が必要である。

(2) 学力向上のための取り組み

【学校では】

「学習のすすめ」にもあるように、宿題には、家庭学習の習慣化や自己学習力をつけるというねらいがあります。高学年になるにつれて、自分で考えて学習に取り組む課題を多くしていきます。また、児童の学習意欲が持続するように宿題に目を通し、コメントを書いたり直接声をかけたりしています。

【家庭では】

児童が、何事にも意欲的に取り組むためには、良い生活習慣を身につけさせることがとても大切です。また、自分で学習に取り組む習慣が身につくまでは、目の届く範囲で、家庭学習に取り組ませることも大切です。良い習慣づけを学校と連携して行うため、宿題や連絡帳にサインをしてください。